

## リニア中央新幹線計画の見直しと、

### 浜岡原子力発電所の永久停止を求める集会宣言

3月11日の東日本大震災から、7ヵ月がたちました。けれど、福島第一原子力発電所は、いまだ、危険な状態が続いています。この間、膨大な放射性物質を福島県内はもとより、日本中、世界中に排出し続け、国連の潘基文事務総長は、「原発事故の被害は国境を越える。もはや一国の問題ではない」と述べ、『原発の安全基準に関する首脳会合』が国連本部で開かれるまでになってしまいました。その危機感は、静岡県内に住む私たち県民には、更に深刻で、現実的なものです。なぜなら、東海、東南海、南海と3連動の大地震が予想される、その震源域に浜岡原子力発電所があるからです。現に、牧ノ原市議会が市民の意思を代弁して浜岡原発の『永久停止』を決議し、市長もそれに賛同することを表明し、県知事を初め多くの県民が理解を示しています。

一方、リニア中央新幹線計画は県内には路線はありませんが、静岡市葵区井川地区の南アルプスを通過し、全地区で地下トンネル工事が行われる予定です。その地上部には大井川源流部があり、水資源に大きな影響を及ぼす可能性やトンネルを掘った後の膨大な残土の処理問題が指摘されています。14日に行われた静岡県の『環境影響審査会』でも、委員から、「建設予定地は貴重な自然が残っている地域で、環境への影響評価を低く設定しすぎでは」との意見が出されました。また、リニアは、一般に従来の新幹線の3倍の電力を必要とされるとされており、その電源に柏崎、浜岡両原子力発電所の電力を予定しているとのこと。事実、山梨県内には柏崎からの送電網が建設されており、また、JR東海の葛西会長は、「多少のリスクを覚悟してでも浜岡原発は動かさなければいけない」と発言しています。

新幹線の乗車率が約53%といわれている現状で何のためのリニア計画なのでしょう。走れば、放射線である危険な電磁波で乗客や沿線住民が被曝し、トンネル走行中の大深度40メートルの深さで、もし地震が起きた場合の危険性を考えると、『命』を無視する暴挙と言わざるをえません。

私たち、10.23シンポジウム in 静岡「NO!浜岡・NO!リニア」参加者一同は、JR東海と国、静岡県、リニア沿線自治体に対して

リニア中央新幹線計画の見直しと浜岡原子力発電所の永久停止を求めることを要請します。

以上、集会宣言とします。

2011年10月23日

10.23シンポジウム in 静岡「NO!浜岡・NO!リニア」参加者一同